

×「ダメ」「～しなさい」で終わらせる。

×「先生が言う通りにしなかったから！」は脅しであり、因果関係に対する子どもの主体を奪っている。【この件も来年度】

- ・「閉じた質問」より「開かれた質問」。
- ・「正しさ」より「豊かさ」。
- ・「気持ちに寄り添う」？「寄り添ったつもり」になるより、具体的な言葉（感情、意志の言葉）を渡して。
- ・「どんな気持ち？」「自分で考えなさい」…、言葉がなければ、不可能。【36～39ページ】【『保育の安全』サイトのトップページ→「定番 YouTube」→「3000 万語の格差を動画で解説」にも(特に第3回と第4回)】

閉じた質問ではなく、
開かれた質問を



「閉じた質問」は正解が決まっている質問。「開かれた質問」は正解がなく、自由に考えることのできる質問のしかた。

★例1：積み木を積んでいる子どもに…

×「じょうずに積めてるね！」←あいまい。おとなの言葉が少ない。子どもの言葉は増えない。

○「Aちゃん、積み木を積んでいるんだ。何段、積めた？ 数えてみようか。1、2…、次はなんだっけ？ 3！ そうだ。3だった！ 今、手に持っているのは何色？ あお。うん、あおだね。何段め？ 3段めか。よし、積んでみて。やった！ 積めた！」

★例2：朝、登園してきた子どもに…

×「Bちゃん、Tシャツ、かわいいね！」←あいまい+まず、好きな子どもにしか言わない。

○「Cちゃん、今日のTシャツの絵はなあに？ うん、しんかんせん？ しんかんせんって黄色いの？ あ、それはドクターイエローって名前なんだ！ 私、知らなかった。え、ドクターイエローを見たの？ どこで？ お母さんと一緒に〇〇で見たんだ！ 後でみんなにも教えてあげて、ドクターイエローって何をする乗り物なのか。お部屋に電車の図鑑があるよね！」
←あなたが嫌いな子どもでもやりとりができる。やりとりが相互の信頼関係を築く。

例：因果関係を伝える（安全の場合）

【45ページにも例。『3000万語の格差』の第5章、特に165ページ～】

